

2016年3月期第1四半期決算 決算説明会 Q&A (要旨)

【2016年3月期第1四半期の業績について】

Q：金融 IT ソリューションセグメントが大幅な増益（前年同期比 487.2%増）となった要因は？

A：前第1四半期の不採算案件によるコスト増の影響が解消したことや、共同利用型サービスの顧客基盤拡大による増収効果などによる。

Q：金融 IT ソリューションセグメントの受注高が減少（前年同期比 9.0%減）しているが、どのような要因か？

A：証券業向けソフトウェア製品販売の受注や保険業向けで増加したが、だいたい証券ビジネスの受注計上タイミングの前期と今期の違いが影響し、全体では減少となった。

Q：連結子会社化したブライアリー・アンド・パートナーズ（以下、B+P）の業績寄与はどの程度か？

A：2016年3月期の売上高は、年間約50億円を見込んでいる。のれん代の償却を含め、初年度の利益寄与は小さい。

Q：その他セグメントで減損処理を実施したとのことだが、どのような案件か？一過性のものか？

A：一部の子会社においてソフトウェアの減損処理を実施した。一過性のものである。

Q：販管費が増加（前年同期比 19.1%増）しているが、どのような要因か？

A：人員増加や業績回復にともなう人件費の増加に加え、B+P 連結子会社化による影響があった。

Q：サイノコムソフトウェアグループからの事業譲り受けについて、どのような効果が見込まれるか？

A：中国でのオフショア開発において、安定的な開発体制の確保が可能となる。

【2016年3月期通期業績予想について】

Q：第2四半期以降の業績見通しに変更はあるか？

A：2016年3月期通期業績予想に変更はない。

Q：第2四半期の証券業向け売上高予想を高く見込む理由は？

A：第1四半期に受注した証券業向けソフトウェア製品販売が、第2四半期に売上計上の見込みであるため。

・本資料は、2016年3月期第1四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。
・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

【株式分割について】

Q：2015年10月1日付で実施する「1対1.1」の株式分割の目的は？

A：NRI株式の流動性の向上と投資家層の拡大、および株式還元のさらなる向上が目的である。

以上

・本資料は、2016年3月期第1四半期の業績および今後の経営戦略に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的としたものではなく、また何らかの保証・約束をするものではありません。本資料に掲載されております事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではなく、また今後、予告無しに変更されることがあります。

・本資料のいかなる部分も一切の権利は野村総合研究所に帰属しており、電子的または機械的な方法を問わず、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。